

・令和3年度実績について

(1) 施策の柱に沿った取組みの実績評価について

成田市文化芸術推進基本計画を総合的かつ効果的に推進するため、4つの施策の柱を設定し、その柱ごとの取組み（全 87）について現在、進行管理を行っています。

また、各取組みの進捗状況を確認するため、本計画の推進と実効性を確保するために定めた「計画最終年度（R5）の目標値」に対する達成見込みを、年度ごとに評価することとしています。

令和3年度の実績からみた、各取組みにおける「計画最終年度の目標値」に対する達成見込み【「令和3年度の実績から評価した計画最終年度における目標値達成見込みと主な取組みについて」参照】は、評価対象となっている71の取組みのうちS評価（十分達成できる）となった取組みが1で評価対象取組み数の1.4%、A評価（達成できる見込み）となった取組みが14で19.7%、B評価（達成できるかわからない）となった取組みが13で18.3%、C評価（達成できる見込みが低い）となった取組みが15で21.1%、D評価（達成が見込めない）となった取組みが4で5.7%、E評価（その他〔事業終了、事業を予定どおり実施しなかったなど〕）となった取組みが24と全体の33.8%という結果でした。

昨年同様、取組みの中で、その性格が目標設定にそぐわない16の取組みについては「目標値」を設定せず、実績により取組みの状況把握を行うこととしています。

① S評価となった取組みについて

S評価となったのは、「成田市統計グラフコンクール」で、募集ポスターの内容を文字情報中心から視覚に訴えかける内容に変更するなど、広報手段を工夫することによって、令和3年度は令和元年度より20%作品数が増加し、目標値を超える結果となっています。（令和2年度は事業中止）

② A評価となった取組みについて

A評価となったのは、14の取組みでした。情報発信に関する取組み等の新型コロナウイルス感染症の影響を受けにくい取組みで、多くの取組みが引き続き目標を達成できる見込みと評価されています。

③ B評価となった取組みについて

B評価となった取組みは13ありました。B評価となっている取組みは、感染症の影響が少なくなり、前年度と比較し、実績値は伸びているもの（ポスター展の開催などコンテスト形式の事業など）はありますが、評価はBと変化はありません。

④ C 評価となった取組みについて

C 評価となった取組みは 15 あり、文化芸術センター及び公民館で開催されるイベントや講座の企画を除くと、主に施設の維持管理や貸館が主であり、施設の入場制限の影響を直接受ける取組みが多くあります。

昨年度ほど最終目標達成の見通しが立たない状況ではありませんが、取組みの多くは実績値が最終年度目標値の 6 割程度の値となっており、目標達成の見込みが低い状況にあります。

⑤ D 評価となった取組みについて

D 評価となった取組みは 4 つありました。そのうち「文化芸術振興事業（ふれあいコンサート）」、「国際文化会館管理運営事業（イベントの企画）」は、新型コロナウイルス感染症対策を施しながら、事業を実施しているものの、感染症対策による人数制限などにより、目標を達成することが見込めない状況にあります。

⑥ E 評価となった取組みについて

E 評価となった 24 の取組みのうち、15 は「国際市民フェスティバル開催事業」など事業が中止となったものや「放課後子ども教室推進事業」など実施回数が当初の予定より減ったことによるものでした。要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、事業の中止や計画どおりに実施できなかった取組みが大多数を占めており、感染症収束の兆しが見えず、最終年度における達成見込みを示すのが困難だったことによるものと認められます。

また、貸館や施設の維持管理に関する取組みは 8 あり、いまだに評価の指標となる利用者数や施設利用率は、その多くで最終年度目標値の 5 割から 6 割程度となっています。コロナ禍における施設の利用制限などを行ったことから、サークル等の活動が制限され、利用者数が減少したことが要因と考えられます。

前年度に E 評価となった取組み 48 に対し、令和 3 年度では 24 となり、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものの、目標達成の見込みについて見通しが立っている取組みが増えています。しかしながら、感染症の影響がいつまで続くのか不透明な取組みも、いまだ多くあり、令和 3 年度の時点においても、「計画最終年度における達成見込み」の評価が難しい状況にありました。

(2) 本計画の達成状況について

本計画では、施策の進捗や達成状況を確認するため、3つの成果目標を設定しています。計画の最終年度である令和 5 年度の目標値は、本計画策定前の平成 29 年度に実施した「インターネットによる市政モニターへの文化芸術に関する

アンケート調査」を基に設定しています。そのため、毎年度同アンケートを実施し、各取組みの実施が市民の文化芸術に対する意識や活動等へ、どのように成果となって現れるのかを確認しています。

「〈表〉3つの成果目標の現状値（成田市インターネット市政モニター 文化芸術に関するアンケート調査結果による）」は、令和3年度の結果についてまとめたものです。

【〈表〉3つの成果目標の現状値（成田市インターネット市政モニター 文化芸術に関するアンケート調査結果による）】

目標項目	策定時 平成29年	参考値 令和元年	参考値 令和2年	現状値 令和3年	目標値 令和5年
年1回以上、市内で文化芸術鑑賞を行った市民の割合	63.1%	53.1%	39.4%	42.8%	72.0%以上
文化芸術活動を行った市民の割合	53.9%	41.3%	20.8%	22.0%	60.0%以上
本市は「文化芸術活動が盛んなまち」だと思う市民の割合	58.0%	53.0%	45.0%	47.6%	65.0%以上

令和3年度の現状値につきましては、2年度と比較し、3項目全てにおいて増加しているものの計画策定時の水準までは回復していません。

目標項目：文化芸術鑑賞を行った市民の割合について

文化芸術鑑賞を行った市民の割合については、42.8%と令和2年度の39.4%から3.4ポイント増加しています。

また、アンケート（Q2）においては、令和元年度調査時から令和2年度調査時に10ポイント以上減少していた「音楽」が、3.3ポイント回復しています。

今回の調査時点では、新型コロナウイルス感染症の影響を受け実施が出来なかった事業なども、感染症対策を講じられ、文化芸術に触れる機会が少しずつ増えていることがわかります。

目標項目：文化芸術活動を行った市民の割合について

文化芸術活動を行った市民の割合については22.0%と令和2年度（20.8%）から増加しました。先の項目で触れた「鑑賞を行った市民の割合」と比較して、増加幅は少なくなっています。

また、活動を行った市民の割合は、ほとんどの分野において増加している一方で、「文化的行事（市民文化祭・音楽祭・演劇祭・映画祭など）への参加」は令和元年度から引き続き減少しており、新型コロナウイルス感染症の影響により、行事の中止による活動機会の減少が、文化芸術活動を妨げる要因として、いまだに大きいことがわかります。

目標項目：本市は「文化芸術活動が盛んなまちだ」と思う市民の割合について

本市は「文化芸術活動が盛んなまちだ」と思う市民の割合については、47.6%といまだ 50%を割り込んでいるものの、令和 2 年度（45.0%）から 2.6 ポイント増加しています。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染症対策を講じながら文化芸術鑑賞や文化芸術活動など市民が文化芸術に触れることができる機会が増えたことが要因の 1 つと考えられます。